

2012年10月26日

今後の治水対策のあり方に関する有識者会議

座長 中川 博次 様

下川自然を考える会 会長 千葉永二
サンルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男
環境ネットワーク旭川地球村 代表 山城えり子
大雪と石狩の自然を守る会 代表 寺島一男
旭川・森と川ネット21 代表 平田一三
(一般社団)北海道自然保護協会 会長 佐藤謙

サンルダムに関する検討についての要望書

10月25日、私たちは、今後の治水対策のあり方に関する有識者会議が10月29日に開催され、サンルダムについて検討されることを知りました。

そこで、突然ですが、サンルダムに関する検討にあたって、以下の点については必ずご検討いただくようお願いいたします。

私たちは、サンルダム建設について多くの疑問をもつものです。その点から、パブリックコメントを通じて、批判的意見や提案を提出してきましたが、検証の主体である北海道開発局は、これらの多くについて回答をしていません。批判的意見を無視するというのは民主的ではなく、ひいては誤った結論をだす可能性が高い。そこで、多くの問題がありますが、限られた時間で検討されることを考慮して、第26回委員会で検討する問題点をしばって述べさせていただきます。ぜひ、以下の4点についてご検討いただくようお願いいたします。サンル川は、日本でも有数のサクラマスが遡上し、ヤマメが極めて豊富な河川として知られています。日本の重要な漁業資源を維持するためにも、また美しい自然環境を後世に遺すためにも、真剣な討議をお願いいたします。

1. 北海道開発局住民アンケートではダム希望は7%にすぎない。

1998年に北海道開発局が、天塩川流域約5,000世帯に行なったアンケート結果では、洪水・土砂災害に対する安全性では、安全：55%、ある程度安全：34%、合わせて89%が安全だと思いと回答し、危険と思う意見は2%でした。洪水対策として具体的に進めてほしいことは、河岸保護工・堤防強化・河道掘削・内水対策合わせて97%、ダム整備は7%でした。北海道開発局は、ダム建設を行わず、自らの河川改修の実績に誇りをもって仕事をするべきではないか。

2. 地域振興のためにダム建設をすすめるのは許されることでしょうか？

サンルダム建設をもっとも強く主張しているのは、ダム建設の現場である下川町です。しかし、サンル川は下川町を流れる名寄川下流で合流するため、下川町の治水にとってサンルダムの効果はありません。下川町は治水ではなく、下川町の地域振興のためにサンルダム建設を要望しています。この点について、北海道開発局の見解を質しましたが、回答はありませんでした。

3. サンプルダム建設ではなく、名寄川の河道掘削案がベストである。

北海道開発局が作成した報告書によれば、サンプルダム案（1案）と河道掘削案（2案）の主な違いは、河道掘削量です。1案では880万 m^3 、2案では1430 m^3 です。1案の残事業費は760億円（そのうちサンプルダム洪水調節残事業費は130億円）、2案では940億円（そのうちサンプルダム関係は310億円）で、2案は1案より180億円大きな値となっています。

私たちは、2案は金額的には1案より約180億円必要になりますが、以下の理由でベストであると考えます。

ダム案にはデメリットが多くあります。とくに焦点のサクラマス保全については、開発局はモニタリングしながら進めると述べていますが、日本のみならず、世界的に魚道によってサケ類の保全に成功した例はありません。現時点ではサンプルダム魚道がどれだけサクラマス保全をできるのか、まったく不明です。一度ダムを造って、サクラマス保全は不十分であるということが判明しても、とりかえしがつきません。サクラマス保全に成功しなかった場合の損害額を北海道開発局は示していませんが、サクラマスの漁獲量と遊漁としてのヤマメ釣りなどを加えた金額に、ダム下流の環境悪化を保全するための金額などを考慮すると、かなりのものになります。さらに、魚道建造費とその維持管理費を含めると、すこし長い目でみれば180億円の差は逆転すると考えています。河道掘削案では何よりも、確実にサクラマスが保全されます。私たちの提案について、北海道開発局はノーコメントです。ぜひ、私たちの提案をご検討ください。

4. 北留萌漁協と北海道開発局の約束及び前川北大名誉教授の意見

2012年8月23日に行なわれた、有識者の意見聴取で、北留萌漁協の蛭名専務理事は次の意見を述べた。「資源の安定性や環境保全、移動連続性という観点から鑑みると極めて重要なバイパス水路の全体計画を示すと共にバイパス水路が移動連続性に与える影響等について、専門家による検証とその結果を示し、その最善策の検討することが、我々が条件を付した項目に適するか否か、今後漁業者が最終判断できるよう真摯な協議対応を求める。」ここで述べられているバイパスは、いわゆる魚道のことで、魚道によるサクラマスの保全が十分かどうかについての判断は今後にかかっていると述べています。

同じく、前川光司北大名誉教授（魚類学）は次のように述べました。「開発局資料には、サンプルダムの建設に伴うサクラマス保全に対して魚道の効果が確かめられるまで、ダムはつくるけれども湛水しない方針であると書かれています。こんなこと普通は考えられないというか、魚道が機能しない場合、無駄なダムがつくられたことになり、これをどうするのでしょうか。どうしてもダムが必要だと考えるのであれば、ダムをつくる前にきちっとした魚道をつくって、その効果を確認してはどうでしょうか。無駄をなくすためです。北海道開発局は最終報告書で、ダムのサクラマスへの影響を最小にすると述べていますが、放流に頼ることなく現在のダム上流部の個体群を維持することです。これが「最少化」の意味です。これに沿ってやってください。

委員の皆さまには、1) 北海道開発局がサンプルダムを建設するには、北留萌漁協との約束の前提条件があるということ、認識していただきたい。2) 北海道開発局が「サクラマスへの影響を最小限にする」と述べていますが、最小限の具体的内容を示していませんので、そのことも認識していただきたい。前川名誉教授が述べているように、「ムダをなくすために、ダムを造る前に魚道の効果をきちっと調べるべきである」ことを実施するようにご検討いただきたい。